

## 大阪の「フトシタシアワセ」を創造するプロジェクト

### The Project of Creating "FUTOSHITASHIAWASE" in Osaka

磯 勝己(キャリアールホテル旅行専門学校 図書館司書)

七野 司(貝塚市都市整備部建築住宅課主査)

芝 稔洋(大阪府都市整備部港湾局 副主査)

白 楽中(マインド株式会社海外支援展開チーム)

福村和広(株式会社 Jプロデュース ツーリズムプロモーション推進室長)

山本訓弘(一般社団法人吉野ビジターズビューロー事務局長)

脇田 和憲(南海電気鉄道株式会社)

ISO, Katsumi(Librarian / The Carriere College of Hotel, Bridal & Travel Management)  
SHICHINO, Tsukasa (Project Manager/Building Residential Division Urban Development  
Department Kaizuka City)

SHIBA, Toshihiro (Assistant Manager/Port and Harbor Bureau, Department of Urban and Public  
Works, Osaka Prefectural Government)

BAEK, Rakjoong(Mind Corporation Overseas support development team head)

FUKUMURA, Kazuhiro(CHIEF PRODUCER / J-PRODUCE Inc. TOURISM PROMOTION  
OFFICE)

YAMAMOTO, Kunihiro(Secretary General/Yoshino Visitors Bureau)

WAKITA, Kazunori (Nankai Electric Railway Corporation.)

【1】本プロジェクトは、ツーリストに向けて使われていない、大阪の空間や時間をシェアリングすることで、創造的な大阪の「滞在」をつくりだすこと、「ふとした、しあわせ」に出会える、空間・時間・体験を創りだすことを、基本コンセプトとした。大阪全体を大きく4つのエリアにゾーニングし、北部を森都大阪 (Forest-OSAKA)、東部を山都大阪 (Mount-OSAKA)、南部を港都大阪 (Port-OSAKA)、中央部を夜都大阪 (Night-OSAKA) と名づけ、それぞれのエリアにおける特徴的な文化を資源とし、ツーリストに向けてシェアリングする。【2】港都大阪は、大阪府内で唯一ともいえる昔ながらの漁村文化が存在する阪南市・岬町の沿岸地域を対象としている。ターゲット層を、関西国際空港に降り立つ、中長期滞在を目的とした外国人個旅行者と捉え、ホームシェアや、自家用車ライドシェアの活用を提案する。【3】森都大阪は、能勢の浄瑠璃、古民家をつかったゲストハウス、移住者による農産物や加工品販売、アドベンチャー施設等のある能勢町において、その観光資源の組み合わせを変えることで、様々なターゲットの取り込みを提案する。【4】山都大阪は、お金、時間、気持ちに余裕のある旅行者をターゲットに、大阪市内のホテルにステイしながら半日や1日滞在のプログラムやファミリーやキッズ向けの自然体験プログラムの開発、グランピング施設の整備を提案する。【5】夜都大阪は、大阪のナイトカルチャーをツーリストにシェアリングし、夜の文化を様々なニーズに合わせて創造、また、ナイトメイヤーの導入を提案する。ターゲットは、日本文化体験に興味のある比較的若い外国人来訪者で、クラブで楽しく伝統文化体験ができ、大阪ツーリストに24時間大阪を満喫してもらう。【6】ホストとゲストの関係の見直し、つまり滞在する外国人がホストになる仕組みを提案する。外国人滞在客が、他の外国人客をもてなすことで、外国人の長期滞在が実現可能になってくる。

キーワード: 森都大阪、山都大阪、港都大阪、夜都大阪

磯・七野・芝・白・福村・山本・脇田（2017）「大阪の「フトシタシアワセ」を創造するプロジェクト」

『創造都市研究e』12巻1号（大阪市立大学大学院創造都市研究科電子ジャーナル）

**Keywords:** Forest-OSAKA, Mount-OSAKA, Port-OSAKA, Night-OSAKA

## 1. はじめに

本プロジェクトは、関西を訪れる観光客や定住者を増やすアイデアを募った大阪府のコンテスト「大阪・関西での『滞在』を考えるー観光・定住促進の切り札とは？ー」において、大阪府立大学経済学研究科観光・地域創造専攻の大学院生と大阪市立大学創造都市研究科の大学院生が合同で提案し、最優秀の大阪府知事賞を受賞したプロジェクトである。本プロジェクトの目的は、社会人大学院生の、「府（大）と市（大）足し合わせ」による、大阪「滞在」のための「ふとした、しあわせ」を探すことである。ツーリストに向けて使われていない、大阪の空間や時間をシェアリングすることで、創造的な大阪の「滞在」をつくりだすこと、「ふとした、しあわせ」に出会える、空間・時間・体験を創りだすことを、基本コンセプトとした。

大阪全体に創造的な空間を創出するために、対象を大きく4つのエリアにゾーニングした。北部を森都大阪（Forest-OSAKA）、東部を山都大阪（Mount-OSAKA）、南部を港都大阪（Port-OSAKA）、中央部を夜都大阪（Night-OSAKA）と名づけ、それぞれのエリアにおける特徴的な文化を資源とし、ツーリストに向けてシェアリングする。以下に、我々の「フトシタシアワセ」を提案する。

## 2. 港都大阪（Port-OSAKA）

港都大阪は、大阪府南部の沿岸地域、特に阪南市・岬町を対象としている。この地域には、府内で唯一ともいえる昔ながらの漁村文化が存在する。ターゲット層を、関西国際空港に降り立つ、中長期滞在を目的とした外国人個旅行者と捉えた場合、これらの漁村文化は、ターゲット層に訴求できる、これまでにない観光資源になり得るといえる。

ただし現状では、複数の漁港を回廊するのに便利な交通手段がなく、また地元の漁師などと触れ合うことのできる宿泊施設もないため、いわゆるシェアリングエコノミーを活用した、漁村民泊とその地域の人たちが所有する自家用車を活用したライドシェアが、将来的な解決策になるだろうと考えている。

あまり知られていないが、大阪湾の沿岸部、特に堺市から岬町にかけては、13もの漁港が存在する。岸和田漁港のように、大規模な漁業を展開しているところもあれば、阪南市・岬町では小規模ながらも、ステレオタイプなイメージの大阪の猥雑さとは違った、ゆったりとした時間が流れる漁村の日常風景を楽しむことができる。

そして、大阪の民間企業の中にも、漁港に注目をし始めているところも出てきている。南海電鉄は「SUI」というウェブマガジンで、南海沿線にある漁港および周辺地域の魅力を伝える取り組みを2015年8月から始めている。泉州郷土料理の食材「ごより」を紹介したり、ワカメの収穫体験の取材など、これまであまり注目されていなかった漁村文化を取り上げたりと、我々のテーマと共通項も多く、大阪南部地域の有力企業とも連携するチャンスがあるといえる。

交通と宿泊に関しては、政府による観光客を含めた外国人の受け入れに関する規制改革案でも取り上げられている、いわゆる民泊と呼ばれているホームシェアや、自家用車ライドシェアの活用が考えられる。現行法による規制や業界団体の反対など、現時点においては障壁が存在はするが、阪南市と岬町の行政域をまたがる国家戦略特区を申請することで規制緩和されることを前提として考えたい。

磯・七野・芝・白・福村・山本・脇田（2017）「大阪の「フトシタシアワセ」を創造するプロジェクト」

『創造都市研究e』12巻1号（大阪市立大学大学院創造都市研究科電子ジャーナル）

ただし、ここでのホームシェアとライドシェアは、交通と宿泊の安価な提供という意味合いではなく、地域のひとと訪日外国人旅行者が、互いの文化交流を促進していくためのプラットフォームであり、重要な役割だと考える。

### 3. 森都大阪（Forest-OSAKA）

森都大阪は、大阪府北部の能勢町の里山文化を対象としている。能勢町は大阪府の最北端で、兵庫県篠山市と京都府亀山市に隣接し、田園風景の広がる地域である。大阪に長年住んでいる人で能勢町の名前は知っていても、実際に行ったことのある人はあまり多くはないのではないかと。実は、梅田周辺から能勢町までは、車で一時間の距離である。新御堂筋を通り千里まで行くと、新箕面トンネルがあり、そこを抜けてしばらく走ったところに、緑あふれる里山文化が残る森の都、能勢町がある。

能勢町を代表する文化として、能勢の浄瑠璃がある。200年つづく伝統文化は世襲ではなく、地域に根ざした人形浄瑠璃で、現在でも約200名の語り手が存在し、文化の伝承がなされている。1993年に大阪府の無形民俗文化財に指定され、1999年には国の無形民俗文化財の選択を受けた。また、地域住民が浄瑠璃を演じる場として、町立の浄るりシアターがある。浄るりシアターは、住民のニーズに応えた鑑賞事業の実施、個人やグループの文化活動に対するサポート、文化芸術の創造活動、観光の推進を事業の4本柱に位置づけ、能勢町における浄瑠璃の創造から発信の役割まで担っている。浄るりシアターでの定期公演、浄瑠璃上映で観光客の滞在促進をはかる。

新しい宿泊施設として、古民家をつかったゲストハウス「みちくさ」がある。ここでは能勢町で収穫した野菜を使ったランチやディナーも提供している。宿泊をしないで、ランチのみの利用も可能である。

能勢町に移住してきた若い夫婦が、試行錯誤して育てた農産物や加工品を販売する「べじたぶるぱーく」がある。年間約60種類の野菜を育てている。べじたぶるぱーくが大切にしていることは、たくさんの種類の野菜を育てること、おいしい品種を選ぶこと、身近なもので土づくりをしていくことである。移住してきた就農した彼らに、能勢町の土で野菜を作りたいと思わせる魅力が、この地域には存在する。

今年7月にオープンした「冒険の森 in のせ」は、空中をワイヤーで移動するジップラインやセグウェイ体験など、家族層にも楽しめる最新のアドベンチャー施設である。

このような、様々な観光資源のある能勢町において、我々はその様々な観光資源の組み合わせを変えることで、様々なターゲットの取り込みを提案する。日本の文化に興味のある外国人観光客、落ち着いた里山文化を体験したい恋人たち、農業体験をしてみたい女性、思い切り遊びたい子どもたち、様々な人を能勢の里山は待っている。更に、ターゲットを家族層と外国人来訪者として、日帰りプログラムや長期滞在のプログラムを開発するなど、受け入れ体制の整備推進を提案する。

### 4. 山都大阪（Mount-OSAKA）

山都大阪は、大阪府東部の山地（生駒山系から金剛山系）の山岳資源や森林文化を対象としている。生駒山は、奈良県のイメージが強く、観光的には奈良県の観光素材としてPRされることが多い。生駒山頂遊園であるとか、生駒山からの夜景がよく紹介されている。

しかし、生駒山から見える夜景は大阪の街である。東大阪市にある小学校の校歌の出だしは、「生駒のみどり さわやかに～」で始まっている。生駒山の大阪側には、登山やハイキングコースが整備されており、ま

磯・七野・芝・白・福村・山本・脇田 (2017)「大阪の「フトシタシアワセ」を創造するプロジェクト」

『創造都市研究 e』12巻1号 (大阪市立大学大学院創造都市研究科電子ジャーナル)

た、園地も多数整備されている。

現在、ツーリスト向けには活用されていない、大阪府の山地 (生駒山系から金剛山系) を、ツーリストにシェアリングする。大阪府民の森を大阪ツーリストの森へ、というのが我々の提案である。

生駒山系から金剛山系にかけて、北から順に、交野市のくろんど・ほしだ園地、四條畷市のむろいけ園地、東大阪市のくさか・ぬかた・なるかわ園地、八尾市のみずのみ園地、千早赤阪村のちはや園地の8つの園地が整備されており、府民の森とされている。この府民の森に、グランピング施設を整備してはどうか、という提案である。グランピングとは、グラマラスとキャンピングを組み合わせた造語で、ホテル並みの設備やサービスを利用しながら、自然の中で快適に過ごすキャンプのことをいう。最近日本でも徐々に増えてきており、星野リゾートが運営している富士山の見えるグランピング施設「星のや富士」が有名である。

お金、時間、気持ちに余裕のある旅行者をターゲットに、大阪市内のホテルにステイしながら半日や1日滞在のプログラムやファミリーやキッズ向けプログラムを開発する。現在、大阪の滞在プログラムに欠けている富裕層向けの自然体験プログラムを目指す。オペレーションは、ホテル運営会社と体験プログラム運営会社がおこなう。また、施設管理は、DMOがおこなう。金剛山系側は、少しカジュアルな施設にする、というようなバリエーションができると、より楽しくなりターゲットの幅も広がると考える。

## 5. 夜都大阪 (Night-OSAKA)

夜都大阪は、大阪市内中心部の夜の文化を対象としている。夜の文化、ナイトカルチャーを滞在に繋げたいと考えた。

欧米諸国では、ナイトカルチャーと言えば、クラブカルチャーの要素が強いが、日本ではあまりクラブカルチャーは一般的ではない。クラブ、ナイトクラブ、クラブハウスなど呼称は様々あるが、音楽に合わせて踊る場所といえる。クラブカルチャーをナイトカルチャーと言い換えるのは少し強引かもしれないが、少なくとも「クラブ」はナイトカルチャーを代表する施設といえるであろう。音楽関係者や、音楽に合わせて踊るのが好きな人のための特別な場所である。しかし、「強面の人が多い」「犯罪の温床」など、負のイメージを少なからず持っている現状もある。

一方、大阪にも、ナイトカルチャーと呼べる文化がある。夏の風物詩「盆踊り (河内音頭)」である。音楽に合わせて踊るという点では、クラブと何ら変わりはない。やぐらを囲んで、音楽に合わせて踊る伝統行事である。その地域にとっては交流の場であり、大人も子供も楽しめる正しい夜遊びといえるだろう。

日本では、まだまだネガティブなイメージが持たれるクラブであるが、2016年4月の風営法の改正を契機に、業界のイメージアップや社会的地位向上を目指す取り組みが行われ始められている。この動きとともに、日本のナイトカルチャーと言える「盆踊り」をクラブで行う、というような「伝統芸能とクラブの融合」ができないか、つまり「クラブ de 盆-Dance」を、新たな滞在要素として訪日外国人に提供することを提案する。

併せて、安心・安全なナイトカルチャーを形成するために、ナイトメイヤーという新たな制度を導入し、継続的に滞在要素の充実を図っていくことも提案する。ナイトメイヤーはオランダで最初に導入された市長公認の制度で、ナイトカルチャーが様々な利益をもたらすことを唱え、「夜遊ぶ人」と「夜寝る人」の両方が納得のいく施策を進める役割を担っている。また、ナイトメイヤーの周りには、ナイトカルチャーの形成に必要な各分野に詳しい人材を配置し、それぞれの分野で実験的な取り組みが進められている。日本でも風営

磯・七野・芝・白・福村・山本・脇田（2017）「大阪の「フトシタシアワセ」を創造するプロジェクト」

『創造都市研究 e』12巻1号（大阪市立大学大学院創造都市研究科電子ジャーナル）

法の改正を皮切りに、がぜん注目を集めている制度である。

また、伝統芸能とクラブの融合は盆踊りだけにとどまらない。既に、ドイツでは「詩の朗読会」がクラブで開催されている。現在、大阪に存在する伝統芸能である「文楽」、「能勢の人形浄瑠璃」、「大阪フィルハーモニー」などの舞台としてクラブを活用するのである。深夜帯の定期公演で、安定した収益が見込めれば、伝統芸能を守れる可能性もある。

現在、観光客向けには活用されていない、大阪のナイトカルチャーを観光客にシェアリングする。そして、夜の文化を様々なニーズに合わせて創造する。クラブで楽しく伝統文化体験ができ、大阪観光客に24時間大阪を満喫してもらおう、というのが我々の提案である。ターゲットは、日本文化体験に興味のある比較的若い外国人観光客である。対象エリアは、キタ(梅田)・ミナミ(難波)で、大阪市内のホテルにステイしながら、昼間は観光、夜はクラブ de 盆 DANCE で大阪を満喫してもらおう。現在の大阪滞在に欠けている、「新しい大阪の夜の楽しみ方」を開発する。

## 6. ホスト・ゲストの関係見直し

上記4つのエリアの提案とともに、もうひとつ新たな仕組みを提案する。ホストとゲストの関係の見直し、つまり滞在する外国人がホストになる仕組みの提案である。外国人滞在客が、他の外国人客をもてなすことで、外国人の長期滞在が実現可能になってくる。査証による滞在条件の緩和策、長期滞在者用の宿泊設備が必要等の課題もあるが、Artist in Residence 的な施策も付加して外国人滞在客の新たな取り組みを目指す。

## 7. おわりに

今回、我々は大阪全体を4つのエリアにゾーニングし、それぞれのエリアの地域資源をシェアリングする提案と、ホストとゲストの関係を見直す事でより長期に、より付加価値の大きい滞在を促す仕組みを提案した。

コンテスト終了後は、今回の提案で着目したエリアである、能勢町と岬町から問い合わせがあり、少しは我々の提案に関心を持っていただけたのだと思う。今後も様々な形で大阪の地域資源の活用に関わっていききたい。

### 【参考 URL】

港都大阪

ウェブマガジン「SUI」

<https://www.facebook.com/nankai.sui/?fref=ts>（最終検索日：2017年4月19日）

山都大阪

東大阪市立長堂小学校ホームページ「学校紹介」

<http://www.city.higashiosaka.lg.jp/school/chodo-e/1,0,12.html>（最終検索日：2017年4月19日）

大阪府みどり公社ホームページ「大阪府民の森」

<http://osaka-midori.jp/mori/>（最終検索日：2017年4月19日）

星のや富士 ホームページ

<http://hoshinoyafuji.com/>（最終検索日：2017年4月19日）

磯・七野・芝・白・福村・山本・脇田（2017）「大阪の「フトシタシアワセ」を創造するプロジェクト」

『創造都市研究 e』 1 2 巻 1 号（大阪市立大学大学院創造都市研究科電子ジャーナル）

#### 夜都大阪

日経ビジネス オンライン

「夜の市長」がナイトカルチャーを変える 風営法改正に尽力した弁護士が見る東京の夜の価値（前編）

2016年2月1日

<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/opinion/15/271844/011300011/>（最終検索日：2017年4月19日）

「夜」から東京の文化を発展させる 風営法改正に尽力した弁護士が見る東京の夜の価値（後編）2016年2月3日

<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/opinion/15/271844/011300012/>（最終検索日：2017年4月19日）

ITmedia ビジネス オンライン

なぜ世界各地の都市で「夜の市長」が注目されているのか 2016年6月23日

<http://www.itmedia.co.jp/business/articles/1606/23/news014.html>（最終検索日：2017年4月19日）

#### 【イベント参加】

「夜の市長（ナイトメイヤー）って何だ？」 2016年9月24日

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川で開催。